

【情報公開文書】

2021 年 8 月 25 日作成

Ver.1.0

研究課題名	高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が骨密度・骨微細構造に与える影響に関する研究 (第二世代高解像度末梢骨用定量的 CT (HR-pQCT) を用いた検討)
所属 (診療科等)	長崎大学病院 内分泌・代謝内科
研究責任者	中嶋 遥美 (助教)
研究機関	この研究は長崎大学病院 内分泌・代謝内科、整形外科、胃・食道外科、総合診療科で実施します。
研究期間	2021 年 10 月 26 日～2030 年 6 月 30 日
研究目的と意義	高度肥満症における肥満外科手術は、減量に加え、肥満関連健康障害、生命予後を改善しますが、術後に骨折リスクが増加する可能性が懸念されています。本研究では、高解像度 CT である HR-pQCT を用いて、高度肥満症患者さんの骨微細構造を解析し、健常者と比較することで高度肥満症患者の骨微細構造の特徴を明らかにします。また、肥満外科治療あるいは内科的治療による減量で、患者さんの骨がどのように変化するかを調べます。さらに血清学的なマーカーを評価することで、高度肥満症における骨質劣化のメカニズムの解明につながる可能性があります。高度肥満症の患者さんの治療前後の骨の状態を知ることは、骨折リスクの早期発見・早期治療と、治療法の選択に重要な情報となります。
研究内容	●対象となる患者さん 1) BMI$\geq$32.5kg/m²の肥満症で保険診療の肥満外科手術適応基準を満たし、当院で肥満外科手術施行予定の患者さん。 2) BMI$\geq$32.5kg/m²の肥満症で保険診療の肥満外科手術適応基準を満たすが、外科手術を希望されず、内科的治療の継続を希望する患者さん。 3) 健常人の方：長崎大学病院整形外科の臨床研究「原発性骨粗鬆症の病態解析：HR-pQCT による骨微細構造の加齢・骨粗鬆症変化の横断・縦断調査」に参加された方の中から 60 名分のデータを、比較のために使用させていただきます。 ●利用する情報／試料 (検体) 高解像度 CT (HR-pQCT)、骨密度検査、血液尿検査、患者背景情報 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。 ●研究の概要・方法 高度肥満症の患者さんと健常人の方の高解像度 CT、骨密度検査、血液尿検

	査、患者背景情報のデータを比較します。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：中嶋 遥美（医師） 長崎大学病院 内分泌・代謝内科 住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7262 FAX 095（849）7270 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）